

広報はだの5月15日号に関するアンケート

作成日：令和5年6月1日

回答数	47
-----	----

問1 ニューススポーツを知っていましたか。

項目	知っていた	知らなかった
回答数	44	3

問2 広報はだのを読んで、ニューススポーツを試してみたいと思いましたか。

項目	思った	思わなかった
回答数	26	21

問3 (問2で「思わなかった」を選んだ方へ) その理由は何ですか。

項目	回答数
運動が苦手だ	11
難しそうだ	2
楽しそうではない	0
個人競技の方が好きだ	2
その他	2

問4 広報はだのを読んで、ご意見がありましたらお聞かせください。

- ・ニューススポーツは、まずは体育から始めた方がよい。子供の興味関心はとてつもない。
- ・ニューススポーツを推すなら、子ども達にも取り組ませるべき。小中学校の体育の授業でお試しでやってもらうことから始めてみては？
- ・そもそも、運動は好きな時に好きな場所でやるのがいいのに、わざわざ、チャレンジデーと称した強制をしなくても。
- ・はだのチャレンジデーの目的が分からない。運動は好きな人が好きな時にやればいいのに、それを強制させるような煽り文句が気に入らない。
- ・ニューススポーツは、まだまだメジャースポーツやマイナースポーツに比べて、認知度が低いので、まずは小中高の体育の授業でやってもらったらいいのかなと思いました。
- ・私みたいに運動が苦手な人でも出来そうなら良いけど。それがこの紙面だけではわからない。まずは、体育でやりたい。
- ・まずは、小中高の体育の授業で取り入れるべき。子ども達から親世代に伝聞された方が、何かと根付きやすい。大人はなかなかそれをやる時間がないが、子どもがやろうと言ったら、親はやる気になると思う。
- ・チャレンジデーにどのくらいお金が掛かっているか分からないけれど、お金を掛けただけの効果が現れているのか分からない。他の事業もそうだけど、お金を掛けなければいけない理由や目的と、どんな事にお金を掛けて、その結果どんな効果が出たのか、見える化してほしい。
- ・チャレンジデー自体に秦野市が参加する意義が感じられない。全国で見ても2桁自治体しか参加していないのに、広報を打ったり職員の事務時間を割いてまでやることなのか？もっと、別の効果がある仕事に時間やお金を使うべき。
- ・チャレンジデー含めて、費用対効果のある仕事の優先順位を付けるべき。4駅賑わいやオモタンなど新しい事にお金を掛けているが、その元となる税収は相変わらず低いようだから、必要性の低い仕事は早々に撤退して、節約するべき。

- いつもお世話になります。楽しみにしています。
- 引き続きいい広報誌にしてほしい。
- パートナーシップの制度化については一定程度評価出来る。ただ、やっただけで終わらせてはいけない。制度化したことを周知しないといけない。よく行政は制度化したり条例化して終わっている。それが生かされて、ようやく市民生活の充実に繋がる。
- パートナーシップ制度は、形だけのような気がします。もうちょっと実のあるものにしてほしかった。せめてでも、市民の理解促進を図るなら、広報で大々的にお知らせしないと、まず忘れます。何故なら、まだまだ皆さんが知らない世界だから。職員の皆さんも、秦野市にどんな条例がどのくらいあるか把握しきれていないと思います。市民はそれ以上に知りません。それなのに、この制度をつくって理解促進を図っていると思っていたら、おしまいです。
- 秦野市パートナーシップ宣誓制度と言うからには、何かしらの権利がほしい。もし、そういう取り組みをするなら、しっかり広報の表紙とかで取り組みを示してほしい。
- パートナーシップ制度は、最初のきっかけとしてはいいと思うけど、この事をもっと周知しないと意味がない。
- 職員採用だが、市役所のやる気が感じられない。ただ、やっているだけ。パンフレットの表紙から、もうやっつけの仕事感がある。もりりんを載せて、何なのか？市内の景色載せて何なのか？それで、就活生がどんな気持ちを持つのか考えたか？もっと、他の役所の採用ページを参考にするべき。
- 職員採用試験のパンフレットを、もうちょっと学生でも見やすいものにしたらどうか？
文字ばかりでわかりづらいと思う。
あと、表紙の意図がわからない。職員を全面に出して、そこで働くイメージをしやすくするべき。

○性別

項目	男性	女性	無回答
回答数	33	14	0

○年齢

項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
回答数	4	6	7	11	14	3	2

